

現代高校生における自由時間活動の相手選択と 自主決定による活動傾向について

○橋本 和秀、山崎 律子（余暇問題研究所）

キーワード： 高校生、自由時間活動、青少年非行

1. はじめに

学校5日制導入に伴ない、高校生を含む青少年の自由時間は増加傾向にあることは周知の通りである。この自由時間増大によって、高校生のゆとりが増えていることは確かではあるがそれが果たして健全な方向へと進んでいるかという点においては疑問が残る。平成8年以降、少年人口は減少をしているにもかかわらず、青少年による凶悪犯罪、性・ドラッグの逸脱行為等、問題行動の件数は増加の傾向にあると報告されている。

青少年を対象にした余暇の研究は従来から多く行なわれてきた。こうした中、地域においては青少年を対象とした各種講座が展開されている。しかしながら、その参加に至っては、年々低迷をしているのが現状であり、新たな展開が望まれている。盛り場では、多くの高校生や青少年男女が昼夜を問わず歩いている光景を目にする。これも自由時間の増大が影響していると考えられる。近年多発増加している青少年の問題行動は、その多くは自由時間中に起きている。それら問題行動を起こす背景には、彼ら自身の意識あるいは社会全体の意識の変化が、少なからず彼等を取り巻く環境に影響しているものと考えられる。

このような問題意識の中、本研究は現代の高校生がどのような自由時間の過ごし方をしているのか、そしてそれには何か理由があるのではないかということに着目し、その基礎的な資料を得ようとするものである。そして問題行動を未然に防止するためにはレクリエーションの考え方を通しての包括的なアプローチがより重要であると考えた。

なお本研究は、2年前より進めている青少年とくに高校生の余暇活動についての実状を探り、高校生に対しての「レクリエーション経験」、「余暇教育の充実」の必要性があるという問題意識のもとにしての継続研究である。

2. 研究の目的

本研究は、現代の高校生が希望する自由時間活動の内容とその際の相手選択による違いを把握・検討をするものである。

- ①自由時間活動における相手選択の実状把握
- ②自由時間活動における相手と希望活動理由の把握および仮説の検証

以上の2項目において、自由記述の内容に主眼をおき、現代の高校生が自由時間をどのように考えているのかを以下の仮説を立てて検討をおこなう。

3. 仮説

「自由時間活動を選択するときの相手の選択は異性が多い」

4. 研究の方法

調査対象は東京都内私立高等学校生徒男女341名。有効回答数233、有効回答率68.3%であった。調査期日は1998年7月。調査方法は、質問紙によるクラス毎の集合回答法を行なった。調査項目については、高校生に自由度を持たせた状態を設定し、相手選択においては四者択一とした。また、希望活動においては自由記述とした。上記の質問をそれぞれ希望を3項目あげ、そのうちの第1希望について選ばせた。分析については、量的分析と並行して質的内容を主体とした把握および検証を行った。

5. 結果および考察

自由時間活動における相手選択の推移 (%)

	一人で	同性	異性	グループ ^o (男女)
男子生徒	29.7	21.9	25.2	23.2
女子生徒	36.3	28.8	12.5	22.5

自由時間活動における相手選択については、男女生徒とも大きな差は見られなかった。僅かではあるが、男女生徒ともに、一人で自由時間を過ごしたいと希望する割合が他の相手項目よりも多くなっている。異性との活動は男子生徒は比較的多いものの、女子生徒は少なくなっている。しかし当初立てた仮説は指示されなかった。

自由時間活動内容の種類 (自由記述抜粋)

	一人で	同性	異性	グループ ^o (男女)
男子生徒	ボーっとする くつろぐ 寝る パソコン・ゲーム どこかへ行く 家で過ごす 勉強・読書 旅行	スポーツ活動 スポーツ観戦 遊ぶ バンドの練習 映画に行く	一緒にいる SEX デート 話す 目的は特にな 遊ぶ	遊ぶ カラオケ さわぐ スポーツ活動 映画 旅行
女子生徒	考えごとをする ボーっとする 寝る 読書 家にいる 音楽の視聴 ショッピング	おしゃべり ショッピング 遊び 映画 温泉 ゲーム 旅行	一緒にいる 語り合う Love ² する 一緒に住む 気ままに過ごす	遊び 旅行 カラオケ 話す さわぐ ショッピング

6. まとめと課題

本研究では、高校生が自由時間にどのような活動を誰と行いたいかを把握し、検討をすることであった。しかしながら、その活動と相手選択については、現状の一端を垣間見るだけに過ぎず深部までを探るまでは至らなかった。また仮説としてあげた事項については支持を得られなかった。自由時間活動において「ひとりで過ごしたい」とすることが意外に多いことについては、自由時間を本当にひとりで過ごしたいのか、対人関係の乏しさ、煩わしさからの逃避なのか(人間関係構築技能の不足)、自由時間の活動項目の乏しさからくるものなのかという点で新たな疑問の残るところである。昨今の忙しい毎日を送っていると考えられる高校生にとっては確かに一人になってゆっくりすることも必要と思われるが、反面、対人関係を自ら避けているとするならば増大していく自由時間の有効な活用としては問題があると思われ、ひいては今日多発している問題行動へと発展するのではと危惧する。レクリエーションの立場からは問題行動へ走らせないより有効な自由時間の活用をするための、さまざまな「レクリエーション経験」を通して、そこから得られる「知識・技術・態度」が必要となると考える。

今後の課題としては、さらに高校生の日常の自由時間行動を面接により個々に調査しその実状を明らかにし、そしてこれからの自由時間の活用方法を見出していきたい。